

モデル事業の目的

人口減少、医療需要減少、医療従事者の減少に対応し、医療提供体制を維持する。

概要

①南佐渡地域医療センターにおけるオンライン診療の導入

常勤医師が不在となり、有床診療所から無床診療所となった南佐渡地域医療センターについて、佐渡総合病院からの医師派遣で対面診療を行っていたところ、その一部をオンライン診療に切り替える。

②南佐渡地域での訪問看護ステーション体制の新規整備

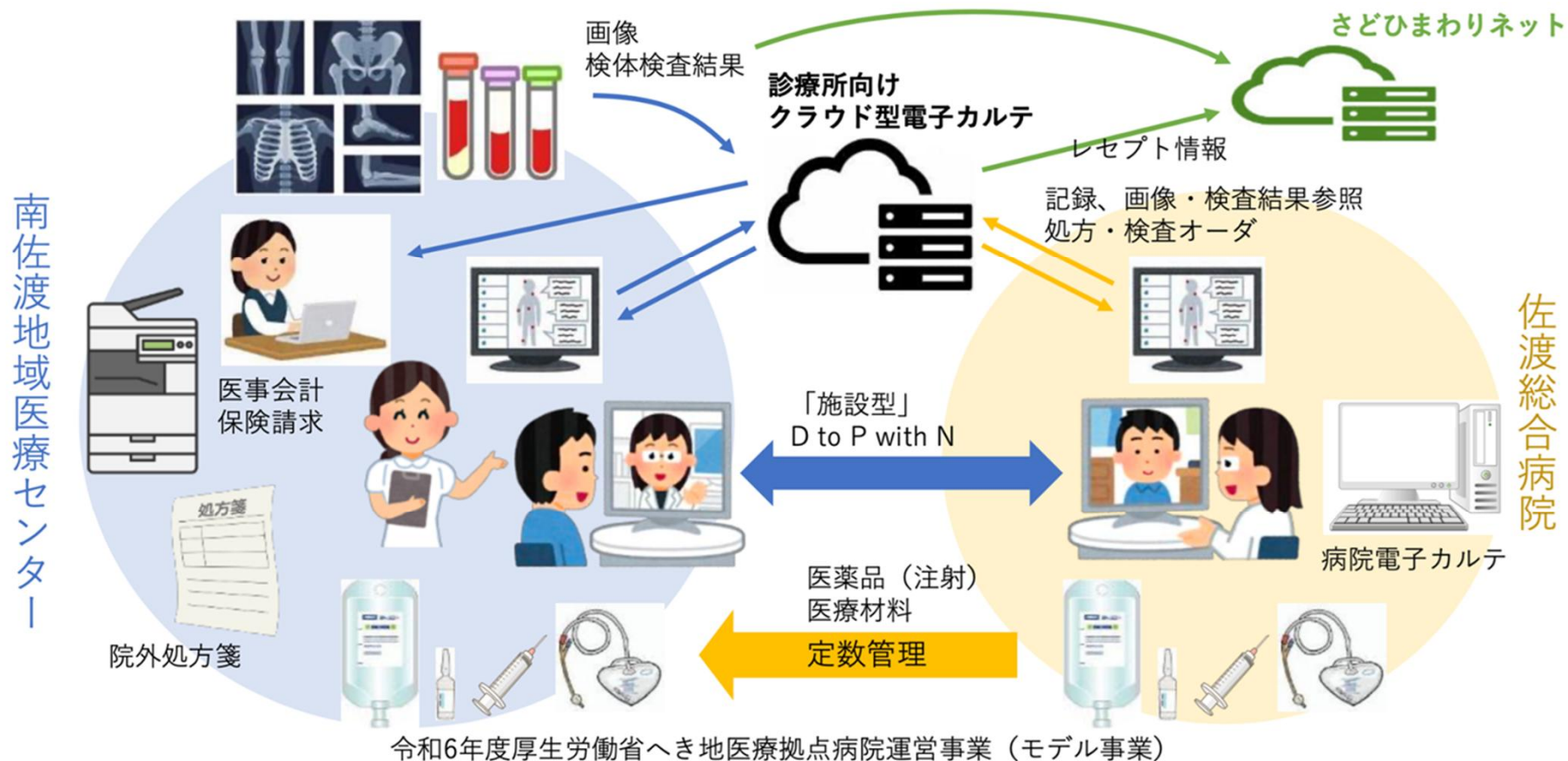
現在佐渡に2つある訪問看護ステーションのうち、佐渡総合病院内の訪問看護体制の見直し、業務効率化を図ることで、同訪問看護ステーションのサテライトを南佐渡地域医療センター内に新設し、地域医療提供体制の強化を図る。併せて、将来的には南佐渡地域での訪問看護実施時にオンライン訪問診療を行うことができる体制の整備を図る。

③佐渡総合病院が行っている巡回診療のオンライン化

現在、佐渡総合病院が行っている巡回診療の一部について、D to P with N型のオンライン診療に切り替える。



南佐渡地域医療センターにおけるオンライン診療の取組状況



- 佐渡総合病院からの医師派遣による診療をオンライン診療に切り替える。
- クラウド型電子カルテを新規導入し、医師の場所によらず処方・検査オーダーに対応する。
- 看護師、事務職、臨床検査技師、臨床放射線技師は既存スタッフをそのまま配置し医療機能を一定程度維持する。
- 外来処方は従来通り院外処方とする。

12/19 第1回オンライン診療実施 再診患者 3名
12/26 第2回オンライン診療実施 再診患者 3名

(R6年12月末時点の実績)

電子カルテ導入

● クラウド型電子カルテの導入は必須

検査などをともなうオンライン診療には、遠方にいる医師が電子カルテを使うことのできる環境が必須

● 電子カルテの構築には一定の時間とコストがかかる

新しいシステム（電子カルテ）の導入となるため、ある程度まとまった期間が必要

- ・ オペレーションの一部変更を伴う
- ・ クラウド型電子カルテと各部門システムとの連携も必要
- ・ 電子カルテとレセコンのマスタのカスタマイズ

患者同意取得

● オンライン診療にシフトする患者の理解醸成が課題

- ・ オンライン診療の必要性に関する理解醸成
- ・ オンライン診療の内容に関する理解醸成

● オンライン診療を行う医師の理解醸成も課題

- ・ モデル事業の目的や概要の理解（医師がモデル事業やオンライン診療について理解しないと、患者に説明できない）
- ・ 看護師や事務員等も理解する必要あり